

研究コース	グループ研究Aコース	選定番号	37
校園コード(代表者校園の市費コード)		751741	

代表者 校園名: 大阪市立加美東小学校  
 校園長名: 濱川 昌人  
 電話: 06-6793-0725 FAX: 06-6793-4175  
 申請者 校園名: 大阪市立加美東小学校  
 職名・名前: 教諭 山口 哲平  
 電話: 06-6793-0725 FAX: 06-6793-4175  
 代表者校園 事務職員名: 園田 香

平成30年度「がんばる先生支援」グループ研究 報告書

◇ 平成30年度「がんばる先生支援」グループ研究について、次のとおり報告します。

研究コース	コース名	グループ研究Aコース	研究年数	継続研究(2年自)
2	研究テーマ	知的好奇心を高める授業の探求 ～自ら学ぶ意欲の向上をめざして～ ◆ 研究内容のキーワード: 研究の内容をキーワードで記載してください。(【例】学力向上、体力向上等) 知的的好奇心、学力向上、主体的・対話的で深い学び、図書室活用、教師力向上、ビブリオバトル		
3	研究目的	・授業研究を通し、「知的好奇心を高める授業」についての研究を進め、教師力・指導力の向上を図る。 ・自ら学ぶ意欲を向上させ、学習に進んで取り組む子どもを育てる。 ・ビブリオバトルを通して言語活動の充実を図り、言語能力の育成を目指す。 ・ビブリオバトルの発案者と交流を図るなどし、活動の可能性を広げる。		
4	取り組んだ研究内容	いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。 10/30 子どものワクワクを刺激する授業法～広告的アプローチをヒントに～ 講師 中島 和哉氏 プレゼンテーション能力の向上をめざしている6年生を対象に、限られた時間の中で、相手に興味をもってもらったり、自分の想いを伝えたりする力を育むために、CMづくりで様々な賞を受賞されている中島氏を講師に招き、授業をしていただいた。相手に想いを伝えるうえで大切なことを聞き、実際にポスターをつくるなどして活動した。 11/28 NIE(新聞を活用した児教育) 講師 大阪NIE推進協議会理事 安田 陽子氏 朝日小学生新聞教育チーム 高橋 宏輔氏 新聞を活用した学習に年間を通して取り組んでいる5年生の研究授業を、安田氏、高橋氏の2人を講師に招き、授業参観をしていただいた。また、安田氏には、示範授業としてNIEの実践を、5年生の児童相手にご紹介いただいた。 12/3 総合百科事典「ポプラディア」を活用した授業と講演 講師 株式会社ポプラ社 図書館事業局 上原 てるみ氏、原川 明氏 不思議に感じたことや興味のあることについて深く探求する子どもをめざしている4年生を対象に、上原氏、原川氏を講師に招き、示範授業をしていただいた。わからないことや困難に出くわしても諦めず乗り越えようとする大切さを学んだ。 12/11 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業による授業 講師 本市の多文化共生教育の推進に関わっている方々 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業の一環で、食文化をテーマに、世界の国々の米料理を通して国際理解教育に取り組んだ。8か国のゲストティーチャーを招き、各国の伝統的な米料理の調理実習を行った。 12/18 書道パフォーマンスの実演・書道教室 講師 上宮高等学校 書道パフォーマンス部 「書道甲子園」で注目を集める上宮高校書道パフォーマンス部を講師に招き、書写への興味・関心の向上を図った。パフォーマンスは全校児童を対象に行い、授業は習字が始まる3年生を対象に行った。 1/15 絵本作家による「絵本の読み聞かせ」と講演 講師 絵本作家 あおきひろえ氏 読書推進の一環として、絵本作家のあおき氏を講師に招き、全校児童を対象に、読み聞かせと講演をしていただいた。読み聞かせや歌、手遊びなど、様々な内容で絵本の楽しさを感じさせていただいた。また、研修では地域の保護者も対象とし、読み聞かせの大切さをお話していただき、学校と地域が連携を取りながら読書推進を行っていくきっかけをつくっていただいた。 1/25 ビブリオバトル公開授業・講演 講師 ビブリオバトル普及委員会 理事 益井 博史氏 ビブリオバトル普及委員会の理事であると同時に、ビブリオバトル発案者である谷口忠大氏と共に大学でコミュニケーションに関する研究を進めておられる益井氏を講師に招き、6年生の児童が行うビブリオバトルの観戦者としてご参加いただき、本の紹介をした児童への質問をしていただいた。研修では実際に教員全員でグループごとにビブリオバトルを行い、益井氏にも参加していただいた。 ※知的好奇心を高める学習玩具(算数科の図形領域に関わる物、論理的思考力を育む物、社会科の都道府県に関する物等)については、学年に沿った物を購入し、教室において休み時間や授業の始め等に活用している。		

申請書に記載した検証方法に基づいて取組を分析し、具体的に記載してください。

○検証方法に記載した、『学校アンケートにおける「学習に進んで取り組んでいる」に対する肯定的回答の割合を80%以上にする』については、学校全体で81%と、目標を上回った。特に3・5年生については昨年度より+14%（3年生）、+13%（5年生）と、大きく向上した。

○『学校アンケートにおける「読書は好きですか」に対する肯定的回答の割合を85%以上にする』については、学校全体で81%と、惜しくも目標には届かなかった。しかし、各学年で読書活動は積極的に行っており、図書室を活用した学習も積極的に行ってきた。（3年生…ベネッセによる漢字辞典の使い方の授業、4年生…ポプラ社による百科事典の使い方の授業、5年生…朝日小学生新聞記者による新聞に関する授業、6年生…ビブリオバトル、ビブリオバトル普及委員会 理事 益井博史氏との交流）また、全校児童と教職員、地域の方々を対象とした、絵本作家による読み聞かせ講演など、学校全体・地域への読書推進も行った。読書が苦手な子が本を手取るようになるよう、更なる読書活動の推進、図書室の活用を検討しなくてはならない。

○読書ノートについては、平野区の「ひらちゃんノート」や、大阪読書推進会の「読書ノート」などを活用し、読書推進をしてきた。特に低学年においては、ノートがうまっていく喜びを感じ、進んで読書をする児童が増えた。その結果、平野区長から「ひらちゃんノート目標達成児童の表彰」を38人の児童が受けた。

○校外学習や様々な取組を行う際に、いかに知的好奇心を高めるかということを考えながら実践を行ってきたので、児童は前向きに学習に取り組んできた。学校アンケートでも、「学校の勉強がよくわかる」に対する肯定的な回答の割合は85%、「学校が楽しい」に対する肯定的な回答の割合は89.8%と、多くの児童が学校・学習が楽しいと捉えていることが成果として表れている。しかし、否定的な回答をした児童が約10%いることも事実であり、否定的な回答の割合を減らすことが課題として残った。今後は継続して知的好奇心の向上に取り組み、誰もが楽しいと感じる学校をめざしていく。

○自主学習については意欲的に取り組む児童も多く見られたが、日頃の宿題も含めた家庭学習に関しては、学校アンケートの「家庭学習をがんばっている」に対して肯定的な回答をした割合は60%と、大きな課題となっている。日々の宿題の出し方、内容の工夫等を学校全体で検討していかなくてはならない。

○学力経年調査の結果を分析すると、本研究が始まる前の一昨年の標準化得点は、大阪市を15~20ポイント下回っている学年がほとんどであった。しかし、本研究が始まって以降は、徐々に成果を上げ、今年度についてはすべての学年が大阪市平均の前5ポイント以内となった。特に6年生については、大阪市平均を上回るなど、一昨年から約15ポイント上昇する成果を上げた。知的好奇心を高める取組、授業の在り方が、児童の学力を高めることに繋がっていると考えられる。

○知的好奇心を高める取組を考える中で、教師一人一人が日頃の授業についても深く考え、準備をする姿が多く見られるようになった。それぞれの学年でめざす子ども像を明確に持ったことで、学年内での研究の話が活性化され、教師の意識にも変化が見られた。今後も、知的好奇心の向上と学力の向上を結びつけることを意識しながら、教師力の向上を図っていく。

5 成果・課題

6	研究発表等の日程・場所・参加者数	日 程	平成 31 年 1 月 25 日	参加者数	約 30 名
		場 所	大阪市立加美東小学校 図書室		

※上記の内容について、原則としてフォントは10ポイント、A4判2ページ(両面印刷1枚)で作成し、平成31年2月25日(月)までに、大阪市教育センター「がんばる先生支援」担当まで提出してください。(研究資料等を添付)